

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	グローバルエンジニア育成のための工学部マレーシア短期研修	
学部・研究科名	工学部	
プログラム実施期間	2019年9月2日～9月21日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア クアラルンプール マラヤ大学、セルダン マレーシアプトラ大学	
参加学生数	10名	知の森からの支援者数 4名
プログラム概要	工学部では夏休み期間中の9月、マレーシアにある信州大学の学術協定校2校に計10名の学生を派遣し、英語で行われる専門的な授業等を体験する約3週間のプログラムを実施した。マラヤ大学、マレーシアプトラ大学に各5名が派遣され、大学内の学生寮で生活しながら、各自の専門に応じて授業に参加した。学生たちは、日本とは異なる授業形態、現地学生たちの積極的な態度等から多くの刺激を受けた。またマレーシアの自然や文化、宗教等を学び、日本を発信するという文化交流、世界各国から集まる留学生や日本への大学進学を目指し日本語を学んでいる学生たちとの出会いなどからも視野を広げることができた。現地の企業見学やリサーチ活動も行い、学生にとって将来世界で活躍するための課題や目標を見つけ、今後の中長期留学や将来の進路を探るきっかけとなる研修となった。	

実施状況・成果

事前ガイダンスを主に金曜昼休みに行き、本プログラムでの各自の目標・目的設定、海外渡航に関する安全指導、留学手続きや授業聴講に関する指導、マレーシアの文化、生活、宗教、派遣先大学での留意点などについての事前学習を行った。昨年度の参加学生にも出席を依頼し、研修により役立つ情報が提供できるようにした。また、工学部の昼休み英会話サロン、一日集中英会話講座、国際問題を考えるGlobal Caféへの参加により英会話力の向上を図った。現地で行うリサーチ活動計画書や日本文化紹介資料を事前に作成・検証して渡航した。また聴講する講義を調べ各自時間割を設定、専門英語の予習等行って、留学に備えた。

留学中、参加者はそれぞれマラヤ大学、マレーシアプトラ大学の学生寮で生活し、各自の専門に応じた英語で行われる授業を聴講した。マラヤ大学では本プログラム用の特設授業も受けた。また、留学生を対象とした小旅行や交流会等にも参加し、交換留学生の留学生生活を約3週間に圧縮した「海外留学シミュレーション」を行った。今回の留学体験は参加者にとって今後の中長期の留学等を検討する契機となった。また自らの学業への姿勢について振り返った者も多く、「帰国後の専門分野での目標がより明確になった」、「授業にもっと積極的に取り組んでいきたい」等としていた。授業等を通じて知り合った現地の学生との交流を積極的に図り、マレーシアでの生活、習慣、宗教等を学ぶだけでなく、日本について紹介する等の文化交流も行った。授業等、当初の予定が突然変更されることもあったが、戸惑いながらも対応していくことができた。異文化に直接触れ、理解し適応する中で、コミュニケーション能力や問題解決力、柔軟性や積極性が養われ、今後グローバルに活動していくための素養を涵養することができた。

帰国後は、報告書類に作成と共に、報告会の開催を予定している。報告会は、学内より自由に出席可能とし、本プログラムの成果を広く発信する。一部の発表は英語で行う予定である。

学生の声①-工学部 学生

マレーシア短期研修プログラムへの参加は、私にとって初の海外渡航経験になりました。実践的な英語力が殆どない状態で、正直なところ勢いだけで参加しましたが、多くの成果がありました。まず一つ目は、英語を話すことへの抵抗がなくなりました。以前は、日本に来た外国人観光客に話しかけられても自分の英語に自信がなく抵抗がありました。しかし、マレーシアに行くことで、正確な英語が話せなくても勇気さえあればちゃんとコミュニケーションが取れることを知り、気軽に英語を話せるようになりました。二つ目は、海外の文化と日本の文化の違いに触れ、海外は勿論、日本を見直すきっかけになりました。それぞれの文化を知ったうえで、日本の良さを初めて実感した気がします。授業にも違いが見られ、マレーシアでのディスカッション形式の授業はとても効果があるように感じられました。最後に、何よりも自分に自信ができました。初めての経験をたくさんすることで、多くを学び、このプログラムを最後までやり切ったことは、私の誇りで、今後の人生に励みにもなります。参加して心からよかったですと思います。

学生の声②-工学部 学生

私はこのマレーシア短期研修を通して、世界の広さを感じ、それと同時に今までの自分の視野や価値観の狭さを思い知りました。研修前半はマレーシアのパーム油の工場にお邪魔し、実際に採取している様子を見学させて頂き、企業の方にお話を聞きました。また、マレーシアプトラ大学が所有するジャングルでトレッキングをしたりしました。熱帯地域ならではの植物や生き物に触れ、マレーシアの自然の豊かさやそれを活かした産業について学ぶことができました。授業が始まると現地の大学生との交流も増え、言いたいことを上手く英語にすることが出来ずとても悔しい思いをすることが増えました。しかし現地の学生は呆れずに私の拙い英語を聞いてくれて本当に嬉しかったし、もっと英語を話せるようになりたいと強く思いました。マレーシアプトラ大学の授業は生徒全員が積極的で、教授と生徒が一体となって授業を作り上げている印象でした。私が普段受けている授業がどれだけ受け身になっているのか気づき、刺激になりました。マレーシアは多国籍文化であるため様々な食、宗教、言語、人に触れることができ、すべてが新鮮で勉強になりました。この研修に参加したことで、自分の中の視野や考え方の幅が広がり、英語への向き合い方が良い方向に変わったことで、将来何らかの形で海外と関わる仕事に就きたいと思うようになりました。

マラヤ大キャンパスツアー



マレーシアの建築見学

